

EGM (イントラコミュニティ)の 成功を目指して

- 「知恵の和」活動の経験から -

平成20年3月11日

NTT 研究企画部門

池内哲之

E G M (イントラコミュニティ)の成功とは？

企業文化、周囲状況、時間経過等により変化していくもの

「知恵の和」の場合

STEP 1

組織・立場等を越えた自由な情報・意見交換が定常化すること

STEP 2

組織・立場等を越えた自由な意見交換を契機とした
目に見える成果を生み出すこと

STEP 1の成功が社内で「成功」として認識され、
それ以上の期待・要望がないなら、STEP1だけで立派な成功。
ただし、STEP2の成功が求められるケースも多々あると考えられる。

E G M (イントラコミュニティ) を成功に導くには？

当初考えていた仮説

裾野の拡大(ユーザ増、投稿数増)

(自然に) 活動の深化 目に見える成果

実際は・・・

単に、裾野を拡大しただけでは不十分。
(期待する「成果」を得るためには)
組織としての適切な関与が必要。

C o P (Community of Practice) の育成・存続・発展には
適度なマネジメントが必要

Stimulation

Support

Recognition

Facilitation

Control

Cooperation within Bureaucracies: Are Communities of Practice an Answer?
by E. Josserand, 2004

<http://www.dmsp.dauphine.fr/Management/PapersMgmt/73Josserand2.html>

「知恵の和」アイデア実現プログラム

個人の漠然としたアイデアを目に見える成果に具現化できるよう支援



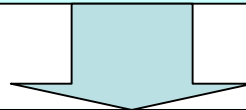
「知恵の和」アイデア実現プログラム - 背景と実例 -

当初は手順(プログラム)が確立していなかった

具体例がない 手続きの議論ができない
出口・手順が見えないから参加し辛い
具体例が出てこない

負の
スパイラル

1件の具体例を機に…



社内手続きを議論・確立

当該活動のアウトプットが会社の正式な成果に！
社内表彰 第二・第三の具体例が出現

正の
スパイラル

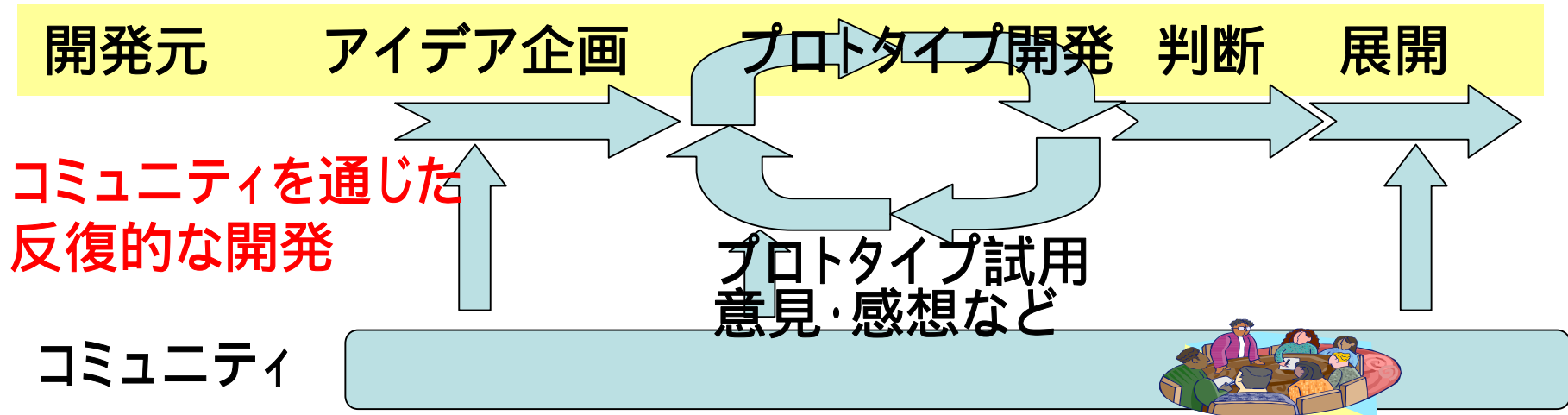
1つの成功例は100の言葉に勝る!!!

検討メンバーの感想

- ・オンラインで議論したり、実際に会ったりしているうちに仲間が集まり、
どんどん形になっていった。非常に新鮮な体験だった。
- ・知恵の和はやり遂げようとする意思を持つ人を支援してくれる。

ソフトウェア公開プログラム

研究所内で開発されるプロトタイプソフトウェアの社内試用を通じて、幅広く意見収集する場を提供する



- 特徴**
- 1) 開発途中段階で、他組織の人の意見を聞く場を提供
 - 2) 技術面だけでなく、ビジネス展開のヒントを得る場を提供
 - 3) 当該技術に対する客観的評価を知る場を提供

利用者の声

- ・他アプリケーションへのインタフェース、ビジネス性など、社内に分散していた知恵・ノウハウから有意義な助言・示唆をもらった。
- ・面倒な手続きなく、社内試用(試験)を行えた。

「知恵の和」に関心をお持ちの皆様

「知恵の和」活動の詳細

NTT技術ジャーナル 2007年1月号 特集記事

以下で全文ダウンロード可能

<http://www.ntt.co.jp/journal/0701/index.html>

お問合せ

NTT 知恵の和担当

chieadmin@lab.ntt.co.jp